

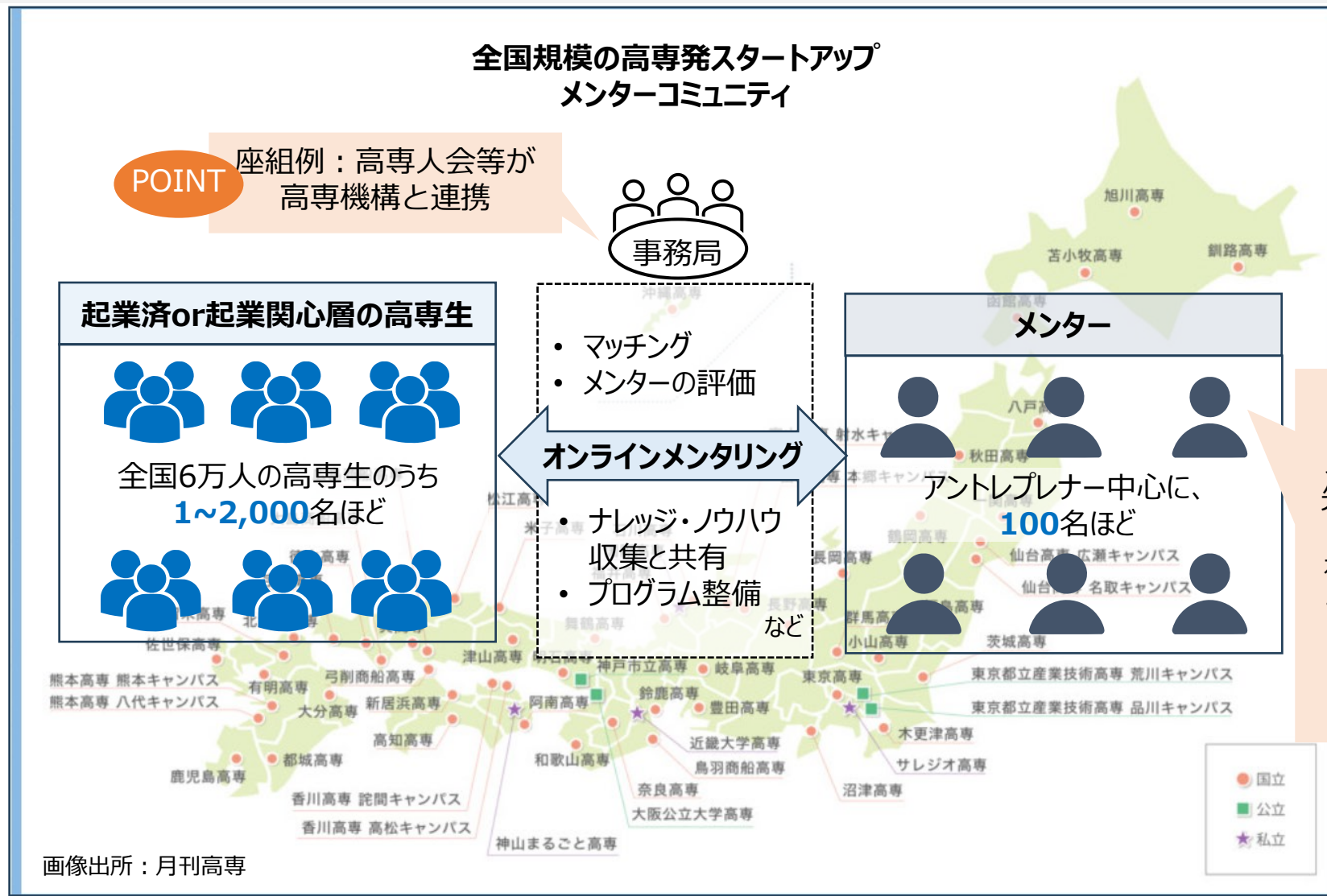
- **AIは、実はLの世界が大きい（GとL）**
 - AIはグローバル競争の下、ウィナーテークオールと思われがちだが、これはChatGPTや検索等の一部のプロダクト(Gの世界)
 - 実際にはITソリューションと同じく、**ローカルな企業向け・産業向けのカスタマイズが市場規模も大きい（Lの世界）**
 - さらに日本では**企業のDXが遅れているがゆえに、潜在的な市場が大きく、ビッグテックも日本からの売上を伸ばそうとしている**
- **地域の企業が、地域のスタートアップにAIのカスタマイズを発注する構造を作る**
 - 東京に本社のある大手のITベンダーは価格が高いことが多い
 - 一方、さまざまなプロダクトを自分で開発したりシステム導入したりするのは、地域の企業にとってはハードルが高い
 - 地域企業が地域のスタートアップに（比較的）低い価格でお願いすると、企業の需要を満たせて**地域にお金循環する**
 - 特に、技術やアイデアに優れる**高専発スタートアップは地域企業の需要に十分応えられる**
- **高専発スタートアップは受託による成長が定石。地元にも本社を置いたまま上場を目指す**
 - 誰もが飛びつくが成功率の低いプロダクト開発ではなく、**受託開発による成長が定石**
 - 地域企業からのAI受託を1件数十万円から始め、徐々に高付加価値化。案件数も増やして、売上を伸ばす
 - 売上が数億円以上のレベルになると、**上場を目指せる状況に**
 - 地元の銀行や電力会社等が出資をし、**地域全体で応援する体制を作る**
 - 上場すると、地域にお金が入る。そして**分かりやすい成功例が出ると、ますます多くの挑戦者が現れる**という好循環ができ、地方創生につながる

⇒地方創生の主役になりうる高専発スタートアップの成長支援の充実を

高専発スタートアップ向けメンターコミュニティの構想



優れた技術・ビジネスアイデアを持つ高専生が起業し、**地元企業からのAI案件受託での成長**を全国的にサポートする仕組みとして、オンラインで高専生がメンターとつながり、サポートを受けられるコミュニティの形成が有効ではないか



POINT

メンターも、メンタリング先の業績やメンティーのFBに応じて評価。高評価だと有望な学生や企業を担当でき、低評価だと淘汰されていく